

講師

古賀 玉緒

■ 学歴

1. 2009 年 久留米大学修士課程 修了

■ 学位

1. 2009 年 修士（医科学）

■ 研究分野

1. 母性看護学
2. 助産学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 周産期
2. 更年期
3. 教育

■ 研究課題

1. 周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。
2. 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。
3. 看護・助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

■ 担当授業科目

1. 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）（前期）必須
2. 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）（前期）必須
3. 助産診断・ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）（前期）必須
4. 初産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年）必須
5. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（通年）必須
6. ウイメンズヘルスケア（前期）必須
7. 助産学基礎実習（前期）必須
8. 助産学実習Ⅰ（正常）（通年）必須
9. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）（後期）必須
10. 母性看護方法論（後期）必須
11. 母性看護学演習（前期）必須
12. 母性看護学実習（通年）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【助産診断ケア学Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 助産別科の学生を対象に産褥期・新生児期に関する講義・演習を行った。 実践経験が少ない学生が、対象をイメージし、観察ポイントを見出し、適切な看護ケアについて思考を深められるよう、具体的な支援についてグループワークやディスカッションを通して考える機会を設けた。また、事前に教員が作成した助産技術の動画を視聴することで、演習に向けたイメージ作りや準備に活用できるよう工夫した。その他、助産学実習を見据え、模擬患者へのロールプレいの演習を取り入れるなど、学生の実践力向上を目指した。 助産診断ケア学Ⅴでは主担当と検討し、ハイリスクに関する内容は臨床において対応する機会が多い事例について解説し実習や国家試験対策につながることを意識した。
2.	授業科目名【助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ】 助産診断ケア学Ⅵでは、健康教育の概要についての解説し、学生が産褥期・思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に実践できるように、講義内容を組み立て実施した。演習では他教員とともに少人数を受け持ち、個別的に対応した。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導するよう心がけた。学内での学習は臨地実習における対象者へ向けた直接指導や高校生を対象とした思春期教育へつながることもあり、実技演習も意識して取り入れた。 助産診断ケア学Ⅶでは、担当する学生の進捗状況を確認しながら、個々の理解につながる指導を意識した。
3.	授業科目名【ウイメンズヘルスケア】 講義は主に解説が中心であるが、教科書のほか国の施策や世界の動向、関係する NGO 団体の活動を紹介することで、ウイメンズヘルスに関する助産師としての自身の支援の方向性や知見を広げられるよう意識した。
4.	授業科目名【助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ）】 臨地実習では適宜、施設担当者と連絡をとり、実習方法や感染対策に関する施設の受け入れ条件を厳守し臨んだ。また、学生が目標とする分娩件数を達成できるよう、実習期間の延長や実習方法を指導者と相談するなどの対応を行った。
5.	授業科目名【母性看護方法論・母性看護学演習】 母性看護方法論では、看護学科 2 年生を対象に、学生が周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的変化の理解およびウェルネス看護診断・看護過程を理解することを目的に、映像を活用し知識の定着や思考力の向上に努めた。 看護過程演習では、看護学科 3 年生を対象に臨床実習を見据え、得られた知識を実践で活用できるよう個人ワークや担当学生との質疑応答の時間を確保し、個々の進捗状況をふまえて効果的な指導になるよう努めた。また、適宜学生の学習成果を確認し指導のポイントをふまえて授業に臨んだ。 母性看護技術演習では母性看護学実習を見据え、臨地実習で活用する機会が高い基本的な技術を中心に演習し、技術テストを行った。なお、実施に際しては、本学の感染予防ガイドラインに沿って実施した。

6.	授業科目名【母性看護学実習】
	臨地実習では効果的な実習を提供するため、事前に実習担当者と実習方法について共有した。 科目担当者として、適宜、直接指導に当たる教員と調整し、各学生の状況を把握し協力しながら指導に携わった。また、臨地にて直接指導に当たる際には、上記同様、個々の学生のレディネスを考慮して個別的指導を心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2007 年 4 月～現在に至る	日本母性衛生学会	会員
2.	2008 年 4 月～現在に至る	日本看護研究学会	会員
3.	2011 年 9 月～現在に至る	日本助産学会	会員
4.	2014 年 5 月～現在に至る	日本看護科学学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外	交付決定額 （単位：円）

			者	
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 6 月～12 月	全国助産師教育協議会	令和 6 年度助産師国家試験プール問題作成・登録活動協力員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2013 年～現在に至る	助産別科学生アドバイザー	
2.	2016 年～現在に至る	助産別科実習コーディネーター	
3.	2016 年～現在に至る	入学試験会議	構成員
4.	2016 年～現在に至る	学生募集委員会	構成員
5.	2017 年～現在に至る	保健福祉学研究所運営委員会	構成員
6.	2022 年～現在に至る	看護学科種まきプロジェクト分科会（実習）	分科会メンバー
7.	2024 年 7 月	オープンキャンパス担当	